

第2章 「JavaScript」の記述

Web応用

第2回 JavaScriptの基礎

第2章

「JavaScript」の記述

第2章 学習目標

JavaScriptで演習するためのテンプレートの作成方法を理解しましょう。

準備物の説明

まず、演習で使用するために以下のものを準備しましょう。

1. コンピュータ(PC)

- PCはWindowsでもMacintoshでもかまいません。
- PCは最良の状態に調整しておいてください。
- 各PCの基本的な操作はあらかじめ理解しておいてください。

注意：PCの設定項目に「よく使う拡張子は表示しない」又は「拡張子は省略する」があります。チェックが入っていると拡張子が表示されないので、チェックを外しておいてください。

2. ブラウザ

- 「ブラウザ」は、Webページを閲覧するためのソフトです。（「ブラウズ」は「閲覧する」という意味です。）
- 本講義では、「Google Chrome」を使用しますので、インストールし、操作になれておいてください。
- Google ChromeのインストールURLはこちら
<https://www.google.co.jp/chrome/browser/desktop/index.html>

3. テキストエディタ

- htmlなどのファイルを新規作成・編集・保存するために「テキストエディタ」を使用します。
- テキストエディタは、次の条件を満たす必要があります。

1. 文字コード「UTF-8」で保存できること。
2. 行番号が表示されていること。

- 本講義では、エンジニア・コードに人気のある「Visual Studio Code(=VSCode)」を使用します。
- 詳細なインストール方法、使い方は「**第2回Visual Studio Code**」をご覧ください、慣れておいてください。

HTMLコードの記述

それでは、いよいよ演習を始めましょう。htmlファイルを作成します。

1. テキストエディタを起動する。

テキストエディタのアイコンをクリックしましょう。

2. 空の新規ファイルを作成する。

メニュー内の「新規作成」をクリックして、空のファイルを作成しましょう。

3. 次のソースコードを入力する。

■ ソースコード

```
1  <!DOCTYPE html>
2  <html>
3    <head>
4      <meta charset="utf-8">
5      <title>サンプル2-2</title>
6      <style>
7        /*CSSのエリア*/
8      </style>
9    </head>
10   <body>
11     <!-- コンテンツのエリア -->
12   </body>
13 </html>
```

解説：

- 今まで学んだhtmlのタグばかりです。もし意味がわからないものは各自復習しておいてください。
- style要素の中の /*〜*/ はCSSのコメント、body要素内の <!-- ~ --> はhtmlのコメントです。

注意：

- ソースコードのいくつかはコピー可能です。コピーしたいところをマウスで範囲指定して、コピーし、テキストエディタなどにペーストするなどして活用してください。
- なお、システムの都合上、ソースのインデント（字下げ）は「半角空白2つ」になっています。（インデントはタブでも半角空白でもどちらでも構いません）本科目ではタブで説明してきているので、タブで統一したい人は適宜、テキストエディタの置換機能で半角空白2つをタブに置換するなどしてください。

4. ファイルを保存する。

次の内容で保存しましょう。

- ファイル名「sample2-2.html」
- 文字コード「UTF-8」

解説：

- 「UTF-8N」の選択肢のあるテキストエディタ（TeraPad等）の場合は「UTF-8N」で保存してください。

script要素の記述

作成したhtmlファイル内にJavaScriptを設置しましょう。

1. JavaScript コードを追加する

script要素「<script>～</script>」内に、JavaScriptのソースコードを記述します。

■ ソースコード

```
10 <body>
11   <!-- コンテンツのエリア -->
12   <script>
13     //JavaScriptのエリア
14
15   </script>
16 </body>
```

解説：

- script要素内の「//～」は、その行の右側(～の部分)にコメントを書き込めます。複数行の場合は「/*～*/」です。

2. 上書き保存する

なにか編集を行った場合は、なるべく頻繁に保存するようにしましょう。以下のいずれかで保存してください。

- メニューから「上書き保存」を選択
- Macなら **command** を押しながら **S**

- Windowsなら **Ctrl** を押しながら **S**

3. 文字を表示する

script要素内に以下のソースコードを入力してください。

■ ソースコード

```
10 <script>
11     //JavaScriptのエリア
12     document.write("Hello World!");
13 </script>
```

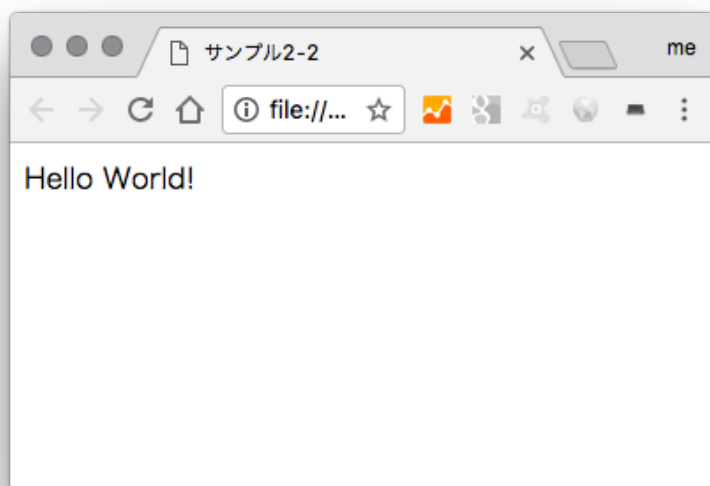
解説 : document.write(); はページ上に()の中にある値を表示するものです。

4. 保存する

もう一度、上書き保存しましょう。

5. 確認

ファイルをブラウザ(Google Chrome)で開いて、「Hello World」と表示されていることを確かめましょう。



練習問題1

問題

JavaScriptの記述

JavaScriptのソースコードはどこに記述するのがもっとも適切ですか。

- ☐ script要素

- strong要素
- style要素

練習問題1の解説

正解は、**script要素** です。

- JavaScriptのソースコードは、script要素内に記述するのがもっとも適切です。
- style要素にはCSSを記述します。
- strong要素は重要であることを示す要素です。

無意識のうちに間違えることがよくありますので、制作の際は気を付けましょう。

第2章 まとめ

JavaScriptで演習するためのテンプレートの作成方法を理解しました。

第2章 終わり

Web応用

第2回 JavaScriptの基礎

第2章

「JavaScript」の記述

おわり

